あとがき

第二十三回日蓮宗教化学研究発表大会は、令和四年十一月二十五日、日蓮宗宗務院で開催されました。本冊子は当日の発表内容とパネルディスカッションを収録したものです。本年の研究発表は昨年同様Webサービス Zoomを用いたリモート会議を使用して行いました。パネルディスカッションは従来通りの対面形式で行いました。安倍晋三元首相殺害事件に端を発して浮かび上がった、旧統一教会を中心とした「破壊的カルト教団」をめぐる問題をテーマとして、パネリストには楠山泰道氏（神奈川県大明寺住職・脱カルト協会顧問）・櫻井義秀氏（北海道大学大学院教授・脱カルト協会顧問・現宗研特別研究員）・服部功志氏（神奈川県常立寺修徒・弁護士）・水谷進良氏（大阪府新福寺修徒・現宗研研究員）の四名にお願いし、赤堀正明氏（千葉県常不軽寺住職・現宗研所長）が議論を進行、それぞれの立場からの様々なご意見を頂き、活発な論議が行われました。詳細は誌面をご覧ください。そしてこのパネルディスカッションを契機として引き続き破壊的カルトを巡る問題を調査・研究し、また令和五年に施行された消費者庁による「法人等による寄附の不当な勧誘の防止等に関する法律」に関する問題等を考えるために、今後も当研究所では専門プロジェクトを立ち上げ、調査を続けていくことが確認されています。

最後に、当大会は本宗教師は勿論のこと、寺族、檀信徒にも門戸を開いた教化学研究研鑽の証を発表する場としています。宗門研究機関発展のため、今後もご協力を切にお願いいたします。